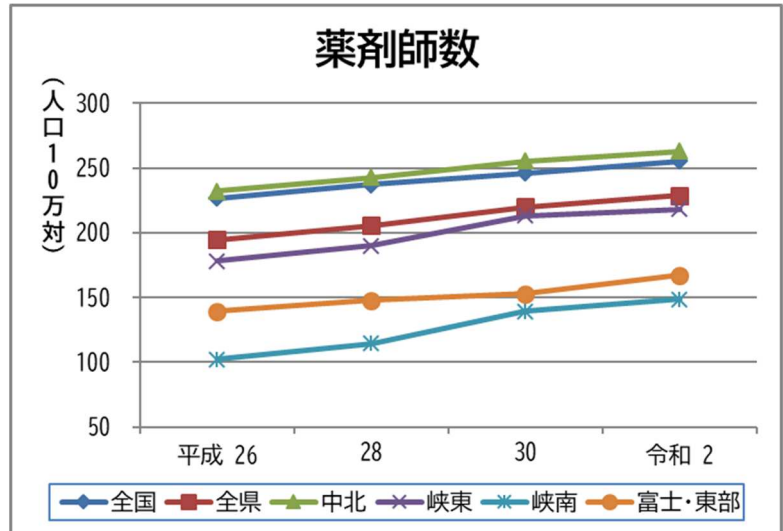


参考資料4

第3節 薬剤師

現状と課題

- 令和2年12月末現在、県内在住の薬剤師の届出数は1,852人であり、平成30年と比較して55人増加しています、
- 人口10万当たりでは228.6人であり、全国の255.2人を大きく下回っています。
- これを圏域別にみると、中北が263.1人と全国を上回っているものの、他圏域では下回っており、峡南において特に少ないなど、地域的に偏在している状況にあります。



(単位：人)

区分	平成 26		28		30		令和 2	
	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対
全国	288,151	226.7	301,323	237.4	311,289	246.2	321,982	255.2
山梨県	1,637	194.6	1,707	205.7	1,797	220.0	1,852	228.6
中北医療圏	1,083	232.3	1,126	242.8	1,176	255.5	1,209	263.1
峡東医療圏	244	178.3	257	190.0	283	213.3	283	218.3
峡南医療圏	55	102.3	59	114.2	69	139.1	71	148.4
富士・東部医療圏	255	139.1	265	147.8	269	153.0	289	167.1

資料：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）

- 就業場所別にみていくと、令和2年12月末現在、最も多いのは、医薬分業の進展に伴う処方せんの増加などから薬局（63.1%）、続いて、服薬指導などの業務拡大などから病院・診療所（20.4%）となっています。

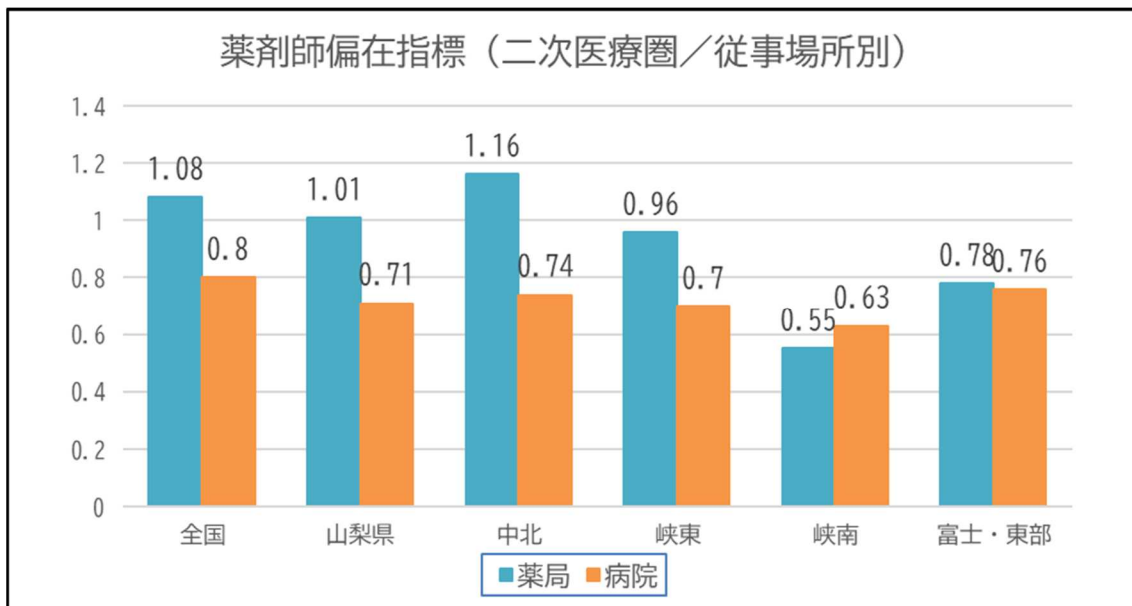
就業場所別の状況

(単位：人)

区分	総数		薬局		病院・診療所		その他		
	H30	R2	H30	R2	H30	R2	H30	R2	
中北医療圏	1,176	1,209	709	750	233	234	234	225	
峡東医療圏	283	283	181	185	69	69	33	29	
峡南医療圏	69	71	42	43	14	16	13	12	
富士・東部医療圏	269	289	177	191	57	58	35	40	
全県	(実数)	1,797	1,852	1,109	1,169	373	377	315	306
	(割合)	100.0	100.0	61.7	63.1	20.8	20.4	17.5	16.5

資料：医師・歯科医師・薬剤師調査（厚生労働省）

- 厚生労働省が令和4年度の調査で算出した偏在指標（薬剤師の必要業務時間（需要）に対する、薬剤師の実際の労働時間（供給）の比率）では、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在があり、特に病院薬剤師が不足している状況にあります。



	全国	山梨県	中北	峡東	峡南	富士・東部
薬局	1.08	1.01	1.16	0.96	0.55	0.78
病院	0.80	0.71	0.74	0.70	0.63	0.76

資料：薬剤師偏在指標等について（令和4年度厚生労働省調査）

施策の展開

薬剤師の確保、業態や地域偏在の解消

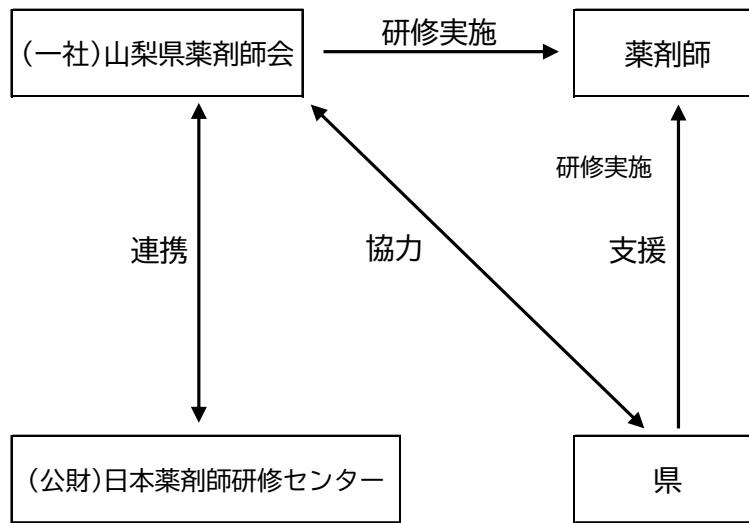
- 薬剤師の本県への就業促進を図るため、薬学生に義務付けられている実務実習の受け入れ病院・薬局の確保や指導薬剤師の育成について、（一社）山梨県薬剤師会と連携を図りながら進めていきます。
- 薬剤師の従事先にある業態の偏在や地域偏在の解消を図るため、県薬剤師会等の関係団体の協力を得て、薬剤師の確保策を検討する枠組みを設置します。特に、病院薬剤師の確保策の検討及び実施については、県病院薬剤師会とも連携を図ります。

薬剤師の資質向上

- 薬学の進歩、医薬分業の進展などに伴う、薬剤師に求められる能力の高度化・多様化に対応するため、（一社）山梨県薬剤師会などの協力のもと、実務研修や自主研修等の実施を促進し、資質向上に資する支援体制の確立を支援します。
- （公財）日本薬剤師研修センターが実施している「研修認定薬剤師制度事業」、「実務実習指導薬剤師養成研修」について、薬剤師への周知に努め、研修への参加を促進します。

<推進体制>

◎資質向上に資する支援体制の整備



数値目標

目標項目等	現状	令和11年度目標
薬剤師偏在指標 (※)	病院薬剤師：0.71 (R4) 薬局薬剤師：1.01 (R4)	病院薬剤師：1.00 薬局薬剤師：1.00

※ 薬剤師の必要業務時間（需要）に対する、薬剤師の実際の労働時間（供給）の比率。2036年を目標年次とし、薬剤師の地域偏在・業態偏在を解消（3年ごとに偏在指標を見直す）。